

# 代表質問発言通告書

発言順位 4 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和3年2月17日

三島市議会議員 大房 正 治 様

三島市議会議員 6 番 古 長 谷 稔



## 質問事項及び具体的内容

コロナ禍で社会が一変した。人と人が会って話しをするという、これまで当たり前だった活動が制限される中、三島市で積み上げてきた「地域のきずな」が危ぶまれている。より一層深刻になりつつある少子高齢化、人口減少の時代背景のもと、コロナ禍を機に経済活動が停滞し、雇用が不安定になり、生活が立ちいかなくなる人が急増している。市制80周年の節目の年でもあり、第5次総合計画の初年度として、税収としては大幅な減収が見込まれる中で、「困難を乗り越え、持続的発展に向け着実に歩みを進めていく」として打ち出された、令和3年度施政方針及び予算案について、下記の通り伺う。

1. ピンチはチャンス、コロナ禍による厳しい現状の中にチャンスを見出すことができるか
  - (1) 財政調整基金を取り崩し、投資的経費が昨年度比31%減の財政に対する危機意識は。
  - (2) 着実前進型予算において、しなやかな回復のツボはどこか。ポストコロナを見据え、市民の安心と希望に向けて財政を立て直していく、今年度の取り組みと、将来展望は。
  - (3) 「共創」に向けた庁内組織改編と、市民参画に向けた自治会など地域との相談姿勢は。
  - (4) 老朽化した市庁舎の更新を含めて、ウィズコロナの時代と捉え、スマート市役所化、デジタル化を見据えた上で、ファシリティマネジメントに今年度どう取り組むか。
  - (5) 第5次総合計画案の中に、ピンチをチャンスに置き換えられる新たな視点はあるか。
2. 第1の柱「ポストコロナに向け発展を続ける都市基盤と品格あるガーデンシティのまちづくり」に関して
  - (1) 都市から地方へ移住・定住の政策の変化、定住人口増加のチャンスはどう生かすか。
  - (2) 大通りの相次ぐ銀行撤退と空洞化を踏まえ、新たな市街地活性化策で何を指すか。
  - (3) 三島駅南口東街区再開発を、ポストコロナの活性化の拠点にするための取り組みは。
3. 第2の柱「新しい生活様式で進化するスマートウェルネスと一人ひとりが輝く教育・文化の推進」に関して
  - (1) コロナ対策のワクチン接種について、副反応の不安を払拭し接種率をどう高めるか。
  - (2) GIGAスクール構想の本格導入初年度として、対内、対外に目指すことは何か。
  - (3) 密を避け、夜出歩かず朝散歩する。健康志向を回遊性ある街づくりと繋がられないか。
4. 第3の柱「絆で守る安全・安心と誰もが生き生きと暮らすコミュニティづくり」に関して
  - (1) コミュニティが急速に失われつつある、「地域の絆」の再構築に向けた取り組みは。
  - (2) 子どもの貧困、子育ての孤立化など、子育て環境を地域社会全体でどう支援できるか。
  - (3) 2040年問題を見据えて、高齢者を地域で支える地域共生社会をどう築くか。
5. やるべきことを粛々とやり続けることがとても大切
  - (1) 東日本大震災から10年、危機に備える防災・減災の取り組み成果と今後の視点は。